

最近の中国の「石油と融資の交換」について

最近、中国が産油国に巨額の融資を行う見返りに資源を獲得するケースが目立つ。2009年2月以降、中国は、ロシア、カザフスタン、ブラジル等の諸国との間で、総額450億ドルに上る石油・融資協定を結んでいる。

2月17日、中国とロシアは「石油分野の中露協力に関する政府間協定」に調印した。具体的には、中国輸出入銀行を通じてロスネフチ並びにトランスネフチに合計250億ドル（変動金利¹）を融資し、その見返りにロシアはESPOパイプライン(東シベリアー太平洋)中国支線を敷設し、2011年から2030年にかけて、同パイプラインによって年間1,500万トン、20年間で総計3億トン規模に上る対中石油輸出を行う²。

続いて4月17日、中国とカザフスタンは、中国輸出入銀行からカザフスタン開発銀行への50億ドル融資と、中国石油天然ガス集団(CNPC)からKazMunaiGasへの50億ドルの融資及びCNPCによるKazMunaiGas傘下のMangistaumunaigas株保有で合意に達した³。

その後、中国とブラジルは5月19日、中国国家開発銀行がブラジルの国営石油会社、ブラジル石油公社（ペトロbras）へ100億ドル（利息6.5%）の融資を行い、一方、ブラジルが2010年から2019年まで、毎年約1,000万トン原油を中国へ輸出することで合意した。そのほか、ペトロbras社は、中国石油化学集団（Sinopec）と石油探査や精製、石油化学製品のなどの分野における協力に関して覚書に調印した⁴。

このように、中国は世界的金融危機を契機として、新興国家の石油開発のために融資を提供し、その見返りに石油長期供給契約や共同開発契約を獲得している。その結果、これら輸出国から今後10～20年間、毎年1,500～2,500万トンの原油を確保することになった。

世界金融危機の中、このような融資と交換する形での原油調達的手法について、中国国内のメディアは、外貨準備の運用多様化⁵や新たな石油備蓄形式⁶などを実現するとして高く評価している。

しかしながら、これらの融資の見返りとしての原油輸入は、固定価格ではなくて国際市場価格によるものである。不確実性の高い国際環境の中で、国際原油価格が再び高騰する

¹ <http://www.oilpipeline.com.cn/news/2009-5-15/61560.shtml>
<http://business.sohu.com/20090422/n263541862.shtml>

² <http://news.sina.com.cn/c/2009-02-18/002717234028.shtml>

³ <http://finance.qq.com/a/20090417/003006.htm>

⁴ http://www.zaobao.com/cninvest/pages3/cninvest_zong090520c.shtml

⁵ http://www.cs.com.cn/wh/02/200905/t20090525_1954675.htm

⁶ http://www.sinopecnews.com.cn/shnews/content/2009-05/21/content_634610.htm

可能性は否定できない。その場合、たとえ中国が長期石油輸入契約を結んでいても、国際原油価格の高騰によって産油国への所得移転が行われることになり、油価高騰の影響が石油輸入国たる中国の経済に及ぶことを避けられるわけではない⁷。石油輸入国が石油の量的な確保よりも適正な価格で必要量の確保を重視しているのに対し、中国のこうした「石油と融資の交換」は、石油調達先の多様化などのメリットはあるが、資金の運用や新たな石油備蓄形式の側面で、中国にとって価格面でも有利であるかどうかは疑問である。

また、中国は現在石油輸入の約45%を中東に依存しており、今回の「石油と融資の交換」により確保される中国の石油輸入量は輸入量全体の10数%程度に過ぎず⁸、中国の石油安全保障にとってはまだ十分とは言えない。今回の石油融資協定の中では、資源買収に関わるのはカザフスタンへの融資（CNPCの50億ドル）だけであり、その他は長期輸入契約で、輸入先が多様化されるにすぎない。因みに、ロシアは、中国からの融資の一部を利用して他国の資源買収を行おうとしている模様である⁹。

こうした様々な側面を考えると、世界的金融危機の時期においては、中国は産油国に巨額の融資を行うよりも、国内の省エネルギーや燃料代替といった分野に投資して石油の消費量を減少させていくとともに内需の拡大を図ることで、より大きな経済的効果を上げることができるのではないだろうか。

(エイジウム研究所主任研究員 柳 小正)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>

⁷ ただし、資源買収による権益石油は、獲得コストと開発コストによって決定されるので、国際原油の高騰による産油国への所得移転が行われない。

⁸ 2008年の輸入量約17,500万トンから試算した。

⁹ <http://news.sohu.com/20090317/n262846553.shtml>